

武藤紀子『雨畑硯』

本阿弥書店 2024年 11月 30日 刊行

(恩田侑布子 抄出十五句)

彼岸には薄^{すすき}此岸の松林

皓皓と十三夜月逝かれたる

魚目逝く木賊の青を忘れめや

鳶の来て滴る山となりにけり

町名に「柳」の多し地藏盆

滴りと映る十九の写真かな

八雲忌や山陰線の通る音

路子てふ少女目つぶる春の暮

太郎庵椿なにごとかささやく

棺の中に白桃のやうなひと

會津の墓會津の人が掃く落葉

秋声を聞くや雨畑硯より

なだらかな大和の山と冬を待つ

弱法師の私の覗きし清水かな

松に杖立てかけてあり土曜波

武藤紀子（むとう・のりこ 昭和二十四年、石川県金沢市生まれ。昭和六十三年宇佐美魚目に師事。平成二年「晨」同人。平成五年長谷川權に兄事、「古志」同人。平成二十三年「円座」創刊、主宰。現代俳句協会東海地区理事。中部日本俳句作家協会賞。日本詩歌句随筆評論大賞。全国俳誌教会編集特別賞。）